

環境にやさしいビニール傘の売上の一部を製造国へ 「トップバリュ fururi（ふるり）」寄付金を贈呈 カンボジアの子どもたちの教育を支援

イオンは、公益財団法人イオンワンパーセントクラブ（以下、イオンワンパーセントクラブ）を通して、7月26日（水）、環境にやさしいビニール傘「トップバリュ fururi」（以下、「ふるり」）の売上金の一部462,860円を、認定NPO法人 難民を助ける会（AAR Japan）に贈呈しました。

「ふるり」は、CO₂の排出を抑えたサトウキビ由来の素材を生地に使い、生地と傘骨をそれぞれ組み合わせ、着せ替えてできるビニール傘として、昨年6月に本州・四国・九州の「イオン」「イオンスタイル」約390店舗で販売を開始しました。

売上金の一部を製造国であるカンボジアの子どもたちの教育支援のため、イオンワンパーセントクラブを通じてAAR Japanに寄付することを予め定め、このたび、発売から1年となることを機に寄付を行いました。

本寄付金は、イオンワンパーセントクラブが2016年度に開始した「アジア障がい者支援募金」の一環として寄付するもので、カンボジア国内において20年以上の活動実績があるAAR Japanを通じて、地方自治体・家族・学校で構成される「インクルーシブ教育推進部会」※による学校のバリアフリー環境整備や、障がいを持つ子どもたちの就学支援等にお役立ていただく予定です。

イオンワンパーセントクラブはこれからも、アジア各国の子どもたちの健全な育成と、地域社会の持続的な発展に寄与できるよう、さまざまな支援活動を行ってまいります。

イオンは今後も、お買物を通じた社会貢献をはじめ、さまざまな商品やサービスの提供を通じ、お客さまとともによりよい社会の実現に向けて取り組んでまいります。

【「トップバリュ fururi（ふるり）」寄付金贈呈式の様子】



写真左：
認定NPO法人難民を助ける会
理事長 長 有紀枝様

写真右：
公益財団法人イオンワンパーセントクラブ
理事長 横尾 博

※インクルーシブ教育（inclusive education）：2006年に国連で採択された「障がい者の権利に関する条約」に基づくもので、障がいのある者と障がいのない者が可能な限りともに学ぶ仕組みの構築を目指している。

ご参考

【「トップバリュ fururi（ふるり）」について】

◆開発の趣旨

「ふるり」は、これまで“使い捨て”が当たり前とされていたビニール傘を、長く使っていただくために企画・開発した次世代のビニール傘です。*

一般的に、ビニール傘は、価格がお手頃で駅の売店やコンビニなどで気軽に購入できることが特長です。一方で、近年増加する“ゲリラ豪雨”のように急な天候変化により、出先での購入が増えることで置き忘れも増えています。さらに、激しい雨風によって壊れた傘が街中に放置されることが社会問題にもなっています。こうした中イオンは、「ふるり」の利用を促進することで“捨てないビニール傘文化”をご提案し、環境への負荷低減を目指しています。

※日本洋傘振興協議会調べによれば、日本の洋傘の年間消費量約1億3,000万本のうち8,000万本がビニール傘で、その60%超にあたる5,000万本が出荷から1年以内に廃棄されている。

「ふるり」エコな3つの特長

①柔軟性と強度を備えた樹脂製の傘骨！ <リデュース>

グラスファイバー製の傘骨は、やわらかく折れにくいので、強風で反り返っても元に戻すことができます。壊れにくい「ふるり」は、長く使えて廃棄ゴミの削減に繋がるエコなビニール傘です。



②傘生地“着せ替え”で「捨てたくない」

オリジナルビニール傘を！ <リユース>

「ふるり」は、ビニール生地と傘骨に分解し、簡単に自分で生地の張り替えができるので、自由にお好きな色や柄で組み合わせられる傘です。傘骨と色・柄の組み合わせは、大人用は最大48通り※、キッズ用は最大46通り※です。

※長傘と張り替え生地を着せ替えた場合の組み合わせ数

③植物由来のビニール生地を使用した、環境にやさしい傘！

原料の一部に二酸化炭素の排出量を抑えるサトウキビ由来のグリーンポリエチレンを使用しています。ビニール生地、石突き、傘骨に分解できるので、ごみの分別がしやすく、リサイクルに繋がる環境にやさしい商品です。



◆開発の経緯

イオンは、トップバリュをはじめとする商品の海外ソーシングを進めるとともに、生産についても、インドネシア、ベトナムなどアセアン各国に拠点を拡大してきました。

カンボジアでは、既にUV（紫外線）カット加工の折り畳み傘の生産実績があったため、「ふるり」についても同国内での生産としました。

商品名の「ふるり」は、「身近な買い物で世界を救うことが出来るフェアトレード」をテーマとした、イオンの出張授業を受けた岡山一宮高校の生徒、山崎紀奈里さんが、自らが参加したカンボジア研修において貧困や戦争の爪痕を目の当たりにした経験を踏まえ、考案しました。ふるりの「ふる」は雨が降るの意、「り」はリサイクルの頭文字を取り、加えて、生産国カンボジアのお母さんはふんわりとして凜としたイメージとの想いを込めています。

「ふるり」による“買い物が未来を変えるCSV”の概念図



【認定NPO法人 難民を助ける会（AAR Japan）について】



AAR Japanは、1979年にインドシナ難民を支援する市民団体として日本で設立しました。これまでに60を超える国や地域で自然災害の被災者や紛争による難民の支援をはじめ、障がい者支援、地雷対策などに取り組んでいます。

【アジア障がい者支援募金について】

アジア各国の障がい者の方々に対する教育・就労支援などを目的として、2016年度に開始しました。初回の募金は2016年11月5日（土）～12月4日（日）の期間、協力のお申し出をいただいた全国イオングループの店舗・事業所約8,000か所、1,555万8,751円の善意が寄せられ、当財団が同額の拠出金を上乘せした総額3,111万7,502円の寄付金を、2017年1月18日（水）、認定NPO法人難民を助ける会（AAR Japan）に贈呈しました。

【公益財団法人イオンワンパーセントクラブの主な活動内容】

◆次代を担う青少年の健全な育成に資する事業

<イオン チアーズクラブ>

地域の小中学生に環境学習の機会を提供し、環境への興味・関心や考える力を養成。

<AEON eco-1グランプリ>

全国の高校 及び高校生のエコ活動を顕彰し、エコ活動の輪の広がりを支援。

<学校建設支援>

アセアン各国で子どもたちの教育環境の整備を支援。全国で実施した募金にほぼ同額を上乗せし、校舎の建設と附属設備の設置及び教員養成を支援。

<セーフウォーターキャンペーン>

学校建設を支援した地域で汚濁水を生活用水に使っている地域に、浄化した給水施設を設置することで子どもたちを健康面と教育面から支援。

【学校建設支援】



ネパール新校舎



ミャンマー新校舎



新校舎に喜ぶ子どもたち

◆諸外国との友好親善の促進に資する事業

<ティーンエイジ アンバサダー>

海外と日本の高校生が互いの国を訪問し、表敬活動、交流活動、歴史文化理解活動を通じて国際的な相互理解と親交を深める交流プログラム。

<アジア ユースリーダーズ>

アジア各国の高校生が一堂に会し、開催国の社会問題をテーマに、英語を共通言語としてディスカッションを行うプログラム。異なるバックグラウンドを持つ学生たちが、議論を通してグローバル感覚や互いの価値観への理解を深めることを支援。

<イオン スカラシップ>

アジア各国で学ぶ大学生に奨学金を給付し、次代を担う青年たちの夢の実現を支援。

【ティーンエイジ アンバサダー】



首相官邸訪問



中国での授業体験



ミャンマーで托鉢体験

◆地域社会の持続的発展に資する事業

<ふるさと未来支援>

日本各地に伝わる固有の伝統的な文化・工芸・芸能の継承と普及を支援。

<災害復興支援>

大規模自然災害に見舞われた地域の人々を支援。

<公益法人への支援>

当財団の設立主旨に沿う活動を行う公益法人を支援。

【ふるさと未来支援】



よさこい祭り



イオン ふるさと発見伝



イオン すくすくラボ

* 活動の詳しい内容はこちら (<https://www.aeon.info/1p/>) をご覧ください。

公式アカウント

イオン1%クラブの活動をリアルタイムで紹介。



↑上のQRコードから友達追加

Q 1_percent_club で検索

Q 「AEON 1%」で検索